

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスセンターなかま			
○保護者評価実施期間	2025年12月10日		～	2026年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		～	2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2008年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに応じた課題を提供し、担当制により個別に支援している。	子どものその日の状況を見ながら支援内容や課題の量を調整している。	学校や家庭と情報共有を行い、支援方法や課題の共通理解を図る。
2	子どもたちの満足度が高く、利用ニーズが多い。	長期期間中は充実した内容でプログラムを計画している。年度途中の見学者や希望者が増えてきているため、子どもの障害特性を考慮しながら受入れを検討している。	子どもたちが様々な経験を重ねながら成長できるように、支援プログラムに沿った内容で活動を充実させていく。
3	保護者が相談しやすい環境、雰囲気がある。	共有した情報を基に継続した支援を行えるように努めている。	フィードバックの内容や説明の専門性を高めるため、積極的に研修に参加する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりが薄い。	小さな事業所であるため、地域の住民を招待するような行事は実施していない。	地域との関わりという観点から何が出来るか職員間で考えていく。
2	児童の低学年から高校生までの受入れがあるため、年齢の低い児童と高い児童では、遊びに興味の差ができていく。	情緒に不安がある児童が多いため、年齢の高い児童にとって興味を持ちにくい活動内容になってしまうことがある。	集団活動では集中力や興味に差が出るため、グループに分けて活動を行い、一人ひとりが楽しめる内容を提供していく。
3	活動場所が3階にあるため、階段やEVでの移動に時間がかかり、危険性も高い。	建物の構造上、改善は難しい。	移動時は必ず職員が側で見守り、直ぐに対応できるようにする。